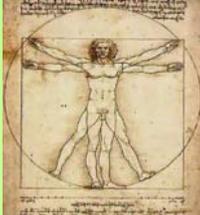


 平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」

不登校傾向の学生への アウトリーチ型支援

キャンパス・ソーシャルワーカーとの協働による
学生の自己選択能力の形成支援

国立大学法人
大分大学



平成21年3月2日₁

 構成

1. 大分大学の概要および新たな取組を始めるに至った問題意識
2. これまでの学生支援・学生相談体制
3. 新たな取組(学生支援GP)

2



1. 大分大学の概要



- ・ **4学部**
 - 教育福祉科学部
 - 経済学部
 - 医学部
 - 工学部
- ・ **学部学生数**
 - 約5,000人

3



問題意識：ニーズがありながら相談に来ない学生（不登校・引きこもり）

- ・ 本学積年の課題，**全ての大学に共通**
- ・ 教職員個人の対応に限界
 - 一部の熱心な教職員 vs. 多数の傍観者
- ・ 対象学生数は少ないが重要度は高い
（「社会的引きこもり」の6割は学校・大学不登校を経験）
- ・ もっとも困難な課題への取組が学生支援業務全体をレベルアップする
- ・ また、そうした学生を支援することが現代の多様な学生を理解することに繋がる

4



休・退学実態調査より(2007年度)

理由	学業不振	就職	留学	進路変更	健康上の理由	経済的問題	家庭の事情	その他	計
休学	<u>37</u>		3	33	<u>40</u>	14	13	17	157
退学	<u>25</u>	15		28	<u>13</u>		5	20	106

休・退学者だけでみても100名(全学生の2%)近くに
不登校傾向がみられていたことになる

→相談に来ていないか来てもドロップアウト
する学生が多い

5



2. 従来 of 取組状況

2.1 学習支援：不登校傾向の 早期予防措置として

- 指導教員制度
 - －ゼミ/クラス当たり学生数：
数人～15人程度
- 「横のつながり」作り
- 不登校傾向の早期識別

(参考) 京大のポケットゼミ



6



2.2 初期的な学生相談

- ・ キャンパスライフなんでも相談室
 - キャンパス・ソーシャル・ワーカー：相談員，**国立大学では全国初(2006-)**
 - 学生本人だけでなく，家族や教員，その他関係機関とつなぎ，調整をする専門家
- ・ 学部の学生相談室



7

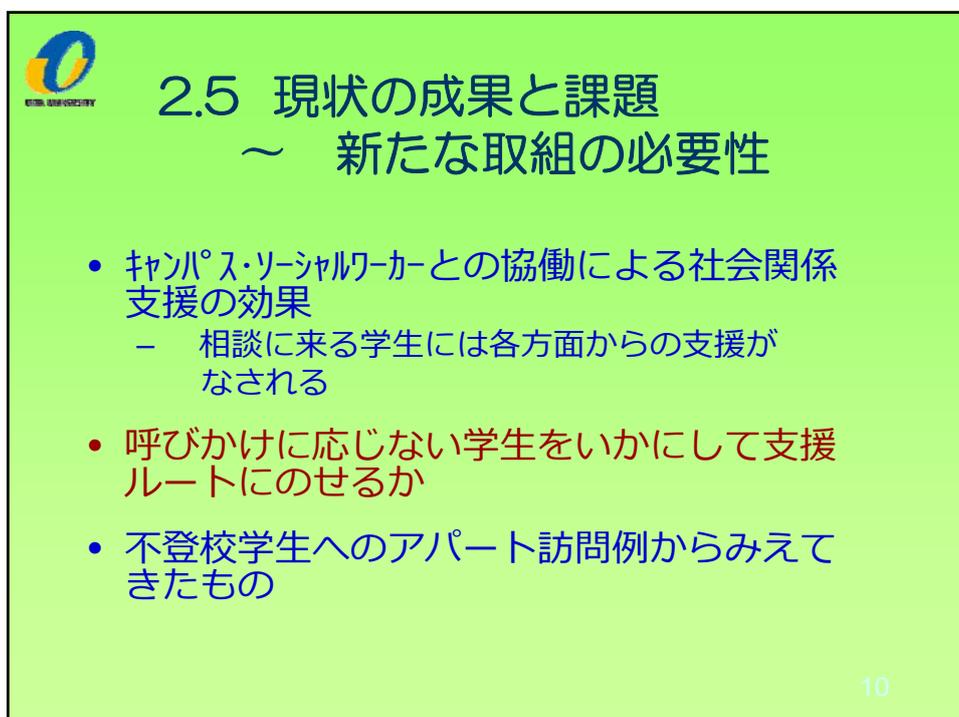
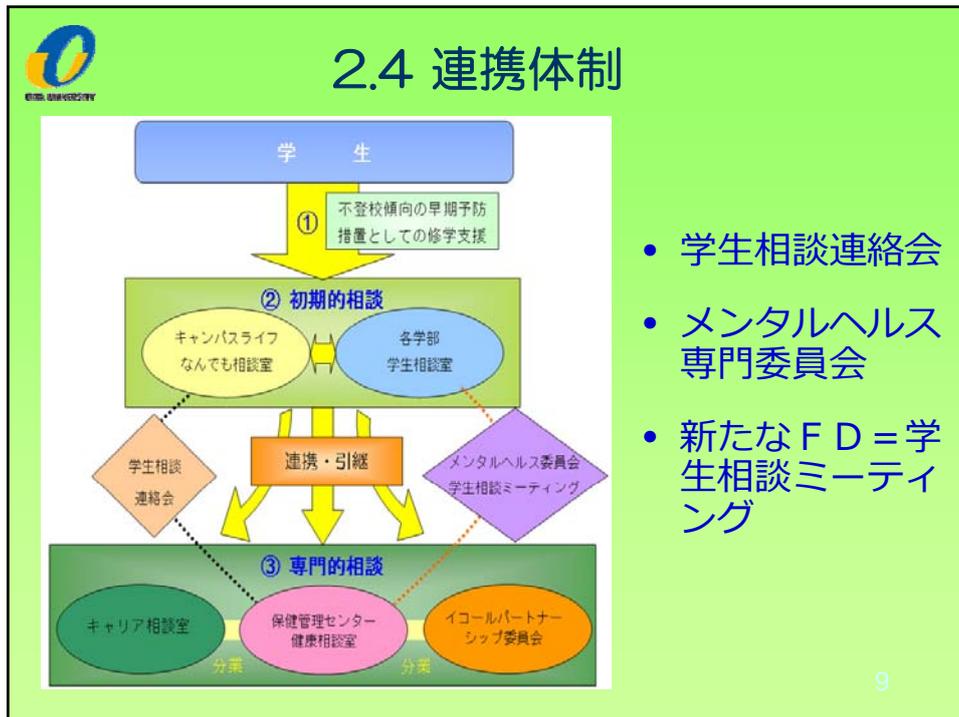


2.3 専門的な学生相談

- ・ 健康相談室（保健管理センター）
 - 孤立傾向の学生に控室開放
- ・ イコール・パートナーシップ委員会
 - **大分方式**によって**全国最高点**の評価
- ・ キャリア相談室
 - 産業カウンセラーなどの有資格者



8





3. 新たな取組・趣旨 ①

- ・ 大学全入時代を迎え学生が多様化する中で、進路や人間関係での迷いが生じ学業不振となり、そこから不登校・休学・退学に結びつく学生が増えつつある。

そうした状況において、大学がこのような学生を積極的に支援していこうとするものである。

11



3. 新たな取組・趣旨 ②

- ・ この取り組みの特徴は学生への支援をより積極的に行うこと、つまり教職員や支援チームのスタッフが、学生に気持ちを向け、手をさし伸べていこう（アウトリーチ）とするものである。

現在、学生との相談だけでなく学習支援や保護者への対応、さらには家庭訪問も開始している。

12



アウトリーチ型支援とは？

- 2つの意味
- 学生の所に支援者が「出て行く」
- 学生が外へ「出て行きたくなる」
 - 外へ出たくない要因群を見極め、それを一つ一つ取り除くことで信頼関係を築き、少しずつ「居場所」に誘い出す

＝自己選択能力の育成支援



13



アウトリーチ型支援(支援の構造)



「心理・社会的支援」「家族支援」「学習支援」の3分野にわたる支援を教職員、精神科医、臨床心理士、ソーシャルワーカーで構成された【支援チーム】が中心となり行っている。

14

アウトリーチ型支援(4段階別の支援)

【第1段階】 予防・早期離別
【第2段階】 訪 問
【第3段階】 専門的支援
【第4段階】 支援体制の強化

不登校傾向のある学生 → 各学都指導教員等 → 支援チーム → 家族支援 → 心理・社会的支援 → 居場所 自助グループ → 自己選択してやる学生
 出でいく / 出でいきたくなる



教職員と支援チーム・びあROOMスタッフが協力して学生を支援する体制を作り、4段階に分かれた支援を行っている。

* 「びあROOM」とは学習サポートデスク、相談室、フリースペースがある場所 15

びあROOM (全景・学習サポートデスク)




除幕式 (2008年10月28日)




16

 **ぴあROOM (相談室・フリースペース)**



ぴあROOMスタッフ



クリスマス茶話会の一コマ 17

 **ソーシャルワーカー、カウンセラーによる心理・社会的支援**

- ・ 教職員より不登校傾向学生(不登校、単位修得不良)が紹介される
- ↓
- ・ 特性に応じた相談担当者(精神科医、臨床心理士、ソーシャルワーカー)を決定
- ↓
- ・ 相談担当者は、相談を継続しながら保護者と連絡をとったり、「ぴあROOM」に案内して支援
- ↓
- ・ 大学での相談にも出て来られない学生に対しては、相談担当者と保護者が話し合いを重ねた後、タイミングをみてアパート訪問を実施



16



学習アドバイザー・学生チューター による学習支援

- ・ 不登校がち、成績不振の学生に
学習アドバイザー(高校退職教員)
や学生チューター(大学院生)が
対応
- ・ 復学後・留年後の単位や科目の
とり方についての相談に応じ、
レポートの書き方、試験対策に
ついても助言





事例紹介(相談件数)

学生本人からの相談	259
家族からの相談	19
教職員からの相談	21
家庭訪問	18
通信(電話・メール)	136
計	453

(のべ件数, 2008.10.1-2009.1.30)





事例紹介(利用状況)

学習サポートデスク	12名	のべ192回
フリースペース	16名	のべ158回

(2008.11.4-2009.1.30)

学習サポートデスクには、11月から学習アドバイザー、12月からは学生チューターが詰めている。
(学生チューターには、事前にガイダンスを行った)